



## 『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

\* 鈴木有郷先生が7月末で牧師職を引退されましたので、しばらく月報には牧師メッセージはありません。礼拝メッセージには、ゲストスピーカーの先生によるメッセージの要約を掲載します。

### ◇日曜礼拝説教より◇

■9月11日 山本アンドリュー先生「宣教の神」創世記12章1-4節 クリスマスは皆宣教師です。美味しいレストランを知っていたら、誰かに教えたくくなりますね。神様の喜びを誰かに伝えること、これが宣教の喜びです。創世記12章には、神様自らの宣教のことを記しています。12章までは創世記は人間が神様に反乱を起こす話、12章以降は全て神様がこの不従順な人類を自らの方へ取り戻す話となっているのです。神様はアブラハムを通じて全ての民が祝福されると言われましたが、この約束はキリストにおいて実現されました。ユダヤの民、そして私たちクリスマンはこの神様の祝福を全世界に報告する民として選ばれたのです。このキリストを伝えることは私たちの喜びでもあるはずですが、そのために、私たちにとってキリストは幸せの源になっているか、考えてみて下さい。◆黙示録7章9節には、あらゆる民族の中から数えきれないほどの人々が来て、神様の御座の前に立ち礼拝する光景が記されています。神様は全ての人々がご自身と、そして互いに和解し合えるよう、歴史の中で働かれています。私たちもその歴史の中におり、共に働くことに招かれています。

### ■9月18日 石井孝之先生「赦し」創世記50章15節—21節

赦しは、キリスト教の大切な根幹です。神様が私たちの罪を赦して下さったのだから、私たちも他者を赦さなくてはならない。それは分かっていますが、自分の子供がいじめられたりしたら相手の子供はなかなか赦せません。凶悪な犯罪人も赦し難いです。刑務所の改革が叫ばれても、犯罪者のために金を使うのはけしからんなどと反対されます。◆ヨセフの物語を見てみましょう。末っ子のヨセフは兄さんたちに憎まれて、兄たちはヨセフを殺そうと穴に放り込みます。そこからヨセフは奴隷商人に売られてエジプトへ行きますが、結果的にパロの宰相にまでなります。兄たちはもちろんそんなことは知りませんでした。彼らの地方に飢饉が

起きて、食べ物をもらいにエジプトへやって来ます。あなたがヨセフならどうしますか。家族だから赦してあげますか。しかし、しばしば、最も赦しの無い恨みの関係は家族の中にこそ生まれることがあるのです。一度そういう争いが家族の中で起きてしまうと、和解するまで大変です。◆ヨセフが赦すことが出来たのは、ただの家族愛によるのではなく、神の教え、神への信仰によります。兄たちを見て、ヨセフは涙を流し「私が神に代わることが出来ましょうか」と言います。自分は神ではないのだから、神に従って赦そう。これこそが本当の聖書の教えです。赦すことはとても難しいことです。しかし、私たちはいつも十字架を思い出さなくてはなりません。私たち一人ひとりの罪のために死んで下さった主イエスを目の前に置かなくてははいけません。私たちは本当に他者を赦すことが出来るか、よく考えてみましょう。

### ■10月2日 石井孝之先生「信仰とその責任」ルカ福音書17章5節—10節

現代に生きるクリスマンの問題点は、私たちが信仰を大したものと思っていないこと、信仰にこの世界や人生を変える力があることを自覚していないことではないかと思えます。自分の人生や生きがいのことを考えると、私たちは自分の給料や昇進や趣味のことなどばかり考えてしまい、信仰の方は適当なもので済ませ、その挙句失望するということになっていませんか。◆この状態を考えると、私たちに主イエスの弟子たちがうらやましくなりますね。弟子たちは主イエスが病人をいやし、死人をよみがえらせ、少ない食べ物で5千人を養われるのを見、水上の暴風を静められるのを見ました。主イエスに従えば毎日を希望を持って生きられる、神様と生きることの素晴らしさを実感したことと思います。この弟子たちが「わたしたちの信仰を増して下さい」(5節)と主イエスに頼んだ時、彼らは大きな答えを期待していたと思います。しかし、主の答えは意外にも「からし種1粒ほどの信仰があるなら、木をも海に移せるであろう」という、小さなからし種に関することでした。このからし種のような小さな信仰でも大きな奇跡が起こせるのであれば、私たちが神様と世界のために大きな貢献をしたいと思う時、大きな信仰を望まなくてはなりません。◆そのような信仰を持つためにはどうしたら良いでしょうか。洗礼を受け、教会の儀式に参加すれば自然と信仰が大きくなるものでもありません。日々神様に仕え、毎日の仕事に励み、しかもその上で自分の主のために働ける人(7節—8節)のようにならなくてはなりません。自分の利益のことばかりでなく、隣人のことも思いやるようではなくはなりません。毎日神様に仕えることによって世界に希望を与えることが信仰者の姿です。神様のために働く事に終わり無く、教会生活に卒業などはありません。一生涯神様に仕えて行こうという決意はあなたの中にありますか。◆私たちのような小さな信仰の持ち主にも、神様の愛を実感させてくれるのがこの聖餐です。私たちが働いた後、神様ご自身が私たちのために備えて下さった奇跡の食卓です。この世界聖餐日の今日、私たちのために自分の命を捧げて下さった主イ

# 日米合同教会月報74巻2011年10月号

エス・キリストの愛に感謝し、喜びを分かち合い、クリスチャンとしての責任を思い起こしましょう。

## ◇教会活動報告・スケジュール◇

■**建物修復の工事** 建物修復チームは、教会正面のタイル修理などのための費用見積もりを複数の建築業者から集め、詳しく検討して来ましたが、このほどアルフレッド・ナザリ氏を監督としてセバン社が工事を執り行うことになりました。ナザリ氏は昨年やぐらを建てる際に尽力して下さった有能な建築家です。工事内容は、正面の壁にストッコ(漆喰)をほどこすこと、消防法に従って地下台所にアンスル・システム(自動消火装置)を設置すること、非常口の標識・灯火を新たに設置すること、運用許可証(Certificate of Operation)を市当局から交付してもらうこととなります。市当局から建築許可が認可されれば短期間の内に全ての工事が完了する見通しです。ご質問等は修復チームの丸橋ダウズ理加姉または市川香織姉まで。

■**秋のゲストスピーカー牧師一覧** 10月の日曜礼拝でゲストスピーカーとしてお話し下さる牧師先生は下記の通りです。10月16日: テリノ尊子先生、10月23日: 木戸ブライアン先生、10月30日: 岡田圭先生です。なお、クリスマス礼拝は山本アンドリュー先生にお願いする予定です。

■**秋のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」の秋期セッションが9月14日から始まりしました。毎週水曜日の午後7時から、11月30日まで合計13セッションが予定されています。トピックは下記の通り: 「神に祈るには?」(10月12日)、「神の導きとは?」(同19日)、「聖霊とは?」(同26日)、「聖霊の働きとは?」(同28日)、「聖霊に満たされるには?」(11月2日)。詳細は丸橋ダウズ理加姉まで。



■**婦人会** 9月18日に開かれた婦人会では市川香織姉が「赦しと和解」と題してご自身の信仰の歩みについて語られ、主の導きにより、長年疎

遠になっていた実のお母様との和解が実現したことをお証して下さいました。10月の婦人会(16日午後1時半)ではゲストに理学療養士である福永拓実兄をお迎えし、気軽に出来る健康体操等を紹介して頂きます。どなたでも歓迎。

■**賛美集会(今戸ちづ姉より)** 9月25日聖日午後、賛美集会が持たれました。神様に歌を以って賛美を捧げたいという思いから計画しました。予定を立ててからあまり時間がありませんで

したが15名ほどの方が参加して下さい、12曲のコンテンポラリーソングを歌いました。奏樂は、音楽主事の相田尚子姉がして下さいました。今後も不定期にですが続けたいと思っていますし、いろいろな方の意見を頂いて賛美集会を作っていきたいと思っています。どなたでもご参加下さい。賛美のリードをしたい方、楽器を演奏して下さい方、選曲をして下さる方を募っています。ご奉仕して下さい方がいらっしやいましたら、今戸までお知らせ下さい。

■**映画会の予定** 10月から教会で公開の映画上映会を行おうと企画があります。プログラムなど詳細は後程お知らせします。

■**ザムザムちゃん** ワールドビジョンを通じて婦人会がスポンサーしているタンザニアのザムザムちゃん(4歳)の新しい写真とプロフィールが届きました。社交室の掲示板に貼ってあります。

■**教会図書** 夏期「ディスカバリーキャンプ」の写真DVDが吉松純先生から寄贈されましたので、教会図書の視聴覚資料の棚に置いてあります。ご覧下さい。また、志村真著『平和をめざす共生神学』、大島力著『旧約聖書と現代』など、鈴木有郷先生が多くの書籍を寄贈して下さいました。感謝です。英語図書のためには宣教師エミー・カーマイケルの伝記が購入されました。

## ◇愛修会のお知らせ◇

今年も愛修会を10月8日(土)から9日(日)まで1泊2日の予定で開催します。ワーウィック・リトリートセンターで行われます。会場は恒例のストーニーポイントではなく、森と牧場に囲まれたワーウィック・リトリートセンターです。テーマは「What is to be a Christian?」です。「主の祈り」、ローマ人への手紙12章1節その他の聖句に焦点をあてて、(1)クリスチャンにとって、人生全体が礼拝であること、(2)イエスご自身が言われているように、クリスチャンは主イエスから離れては何もすることが出来ないこと、(3)しかし、神様により頼むことによって用いられ、実を結ぶ人生を過ごせること、を参加者全員で考え、祈って行きます。特に講師の先生はお招きしていませんが、石井孝之先生が土曜夜のプログラムに立ち寄って下さる予定です。夜にはキャンプファイヤーも予定。心落ち着かない日常を離れ、イエス様に集中するひとときとなればと思います。なお9日にはJAUCでは礼拝は持たれない予定ですので、愛修会に行かれない方々は近隣の教会で礼拝をお守り下さい。教会リストが社交室にあります。

## ◇メンバー関連◇

■**本井兄の著書** 本井慶次郎兄の著書『コロンブスとカリブ海』がこのほど文芸社から出版され、9月10日付の「週間NY生活」紙でも紹介されました。紀伊国屋書店で9月後半から販売されております。また、電子書籍バージョンも[www.boon-gate.com](http://www.boon-gate.com)から500円で購入することが出来ます。教会図書にも1冊あり。

# 日米合同教会月報74巻2011年10月号

■**結婚のお祝い** JAUCで洗礼を受けられ、現在はリディーマー教会のメンバーであるピアニストの田中友樹子姉が8月20日、NJでミレン・パブロフ氏と挙式されました。お二人の門出を祝って、9月17日午後2時半よりJAUCでも集いが持たれました。会ではお二人からクイズ(問:「2人が出会ったはどこ?」、答:「サルサのダンス教室」など)があった後、友樹子姉が『乙女の祈り』を演奏して下さいました。なお、ハネムーンにはパブロフ氏の母国ブルガリアへ旅されたとのことでした。

■**訂正** 月報先月号に掲載された福永拓実兄・三上直美姉の結婚式の記事の中で、フラワーアレンジメントを担当して下さいました小林かおる姉のお名前が抜けていました。花嫁のご要望で、バラをメインに教会の中をお花で飾って下さいました。感謝です。

## ◇地域教会ネットワーク◇

■**VIP集会** 9月12日のVIP集会では、近く挨拶を受けられる伊与田昭夫先生が伝道者として献身に至った経緯についてお話しして下さいました。先生は子供時代、JAUCの日曜学校やサマーキャンプに行かれており、社会人になってから教会からやや遠のいておられましたが、奥様が韓国の方であることもあってお子様に韓国の文化に触れさせたいと、ご自身も韓国教会の英語部に通われるようになりました。2006年にケニアへ短期ミッション旅行へ行かれた際、マルコ福音書5章にある悪霊に取りつかれた男を主イエスがいやされる話を読み、「あなたの家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをして下さいましたか、またどんなにあわれんで下さったか、それを知らせなさい」という言葉の「字が燃えているように見えた」、そしてこれは日本人にもっと福音を伝えよと神様が示されているのではと感じ、信仰のクラスへ通われるようになられたとのことでした。当初をビジネスを続けられたかったのですが、不思議とその道が閉ざされて行き、今後は思うように働きが進まなくても福音伝道に生きるよう決意された由。参加者一同深い印象を受けました。◆10月10日の集会では、吉松純先生が「芸術家と信仰」と題し、レンブラント、ゴッホ、ルオーなどの絵画と信仰の関わりについてお話しして下さいます。NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開催中。■**テリノ先生** SMJ(Special Ministries to the Japanese)の新ディレクターとして8月から奉仕されているテリノ尊子先生は、10月23日(日)マンハッタン西のブリック・プレスビテリアン教会で挨拶を受けられます。また、10月3日に開かれたSMJ理事会にはJAUCからも代表2名が参加し、今後の活動方針などについて先生のご報告を伺いました。■**SMJ講演** SMJ主催による講演シリーズ「聖書のその後 第2弾」がTenafly Presbyterian Church (55 Magnolia Ave, Tenafly, NJ)で10月29日(土)・12月3日(土)午前10時より行われます。ポール&ヤスコ・グロスジーン博士ご夫妻

が聖書をめぐるヨーロッパ史についてお話しして下さいます。問い合わせはJunsuke Motai兄 (junmotai@gmail.com) またはテリノ先生 (smjdirector@gmail.com)。

■**浅田先生** ユニオン日本語教会臨時牧師として赴任された浅田容子先生は、9月8日にNYに到着されました。

## ◇JAUCの歴史から◇

JAUCの前身の1つであるニューヨーク教会(Japanese Christian Institute)では「進歩」というニュースレターを発行しており、牧師の清水宗次郎先生がメッセージを連載されていました。60年以上経った今でもそのメッセージは私たちの心に飛び込んで来ます。その一例:「**イエスを仰ぎ見るべし**」ヘブル書12章1-2節:「神を知らざる人は人生の行路にあって、東西南北の4つの方角しか持たない。それゆえ前後左右の4方面から困難が押し寄せて来ると道を失い、すぐに往生するのである。この如き生活



は平面的であって、自分は進んでいるつもりであるが実は同じ所を回転しているに過ぎぬのである。しかしキリスト者には東西南北とその他に『上』があり、これ実にキリスト者の隠れた力である。パウロの言う『我ら四方より患難受くれども窮せず』(2コリント4章8節)とはこの経験を語った言葉である。この信仰の土台は我らのために十字架にかかれたキリストであり、このキリストを仰ぎ見る事が神より与えられた、世の困難に打ち勝つ唯一の道である(1946年1月)。

## ◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並びに次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(アトランタ・ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師・リリー、神崎ヨネ、桑田ハリ、ゴーマン美智子、保坂田鶴子、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢ジョージ・キミ諸兄姉

## スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロウシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

- |                       |          |          |
|-----------------------|----------|----------|
| SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4土1時  | 園田姉宅     |
| SG 2. 日本人女性の会         | 第2火11時   | 日下部姉宅    |
| SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4日9時半 | 教会(日下部兄) |
| SG 4. 日本語での学び会        | 第2日2時    | 教会(春日姉)  |

# 日米合同教会月報74巻2011年10月号

---

SG 5. 日本語「葡萄の木」の会  
SG 6. 日本語「証しと祈りの会」  
SG7. 英語での学びの会

第4日2時 教会(小林姉)  
毎月最終金夜7時 寒河江兄宅  
毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)